

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名： 綾部市

1. 平成24年度 行財政改革推進計画について【総括表】

計画の概要等	背景	人口減少や少子高齢化が一層進行する中、景気低迷に伴う税収の落ち込みなどにより本市財政は依然として厳しい状況が続いている。また、社会構造の変化等による新たな行政課題や多様化・複雑化する市民ニーズに的確かつ柔軟に対応することが求められている。
	必要性	本市では、長年にわたり行財政改革に取り組んできたが、依然厳しい社会経済情勢を反映し、市税収入が伸び悩み、国の地方財政対策に大きく依存している。一方、少子高齢化など様々な社会情勢の変化に迅速かつ的確に対応しながら真に必要な行政サービスをより効率的に提供する必要がある、さまざまな施策を着実に推進するためには、確固たる財政基盤の確立が求められており、引き続き、行財政改革を進めていく必要がある。
	概要	平成23年度～27年度までの「第5次綾部市行財政健全化の取組」に基づき、本計画による業務改革・投資改革の取組を実施することにより、一層の行財政改革を推進する。また、これらの取組により、各種財政指標の改善を図る。
	効果	本計画により、さまざまな行財政改革の取組を一層推進することにより、財政負担を軽減し、持続的・安定的な財政運営を推進する。

平成24年度行財政改革推進計画に伴う事業実績による行革効果について

事業分類	事業名・実施項目	取組実績の概要	主な実績数値（出来高数値等）	行革効果（単位：人・千円等）
小規模市町村支援				
広域連携事業支援	中丹文化芸術祭事業費	中丹3市の行政、文化団体等が連携して中丹文化芸術祭を開催し、11の事業と1つの関連事業を実施	出演、出品者数：2,011人 入場者数：8,259人	3,928千円

（記載要領）

- 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 「主な実績数値（出来高数値等）」、「行革効果」については、出来るかぎり数値化した客観的な指標を記載すること。

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名

綾 部 市

2. 平成24年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について 【小規模市町村支援・広域連携事業支援用 個別表】

支援区分	事業名・実施項目		
広域連携事業支援	中丹文化芸術祭事業費		
事業着手前			
課題・現状	<p>中丹文化芸術祭は、中丹3市の各行政・各文化団体等が広域的に連携・協力し、毎回11事業を実施しており、平成24年度で26回目を迎え、第23回文化芸術祭から丹後文化芸術祭との交流も図っている。こうした地道な取組の結果、中丹地域においても団体・個人による文化芸術活動の進歩・向上が進んできている状況にある。京都という全国屈指の文化的素地にある中で、平成23年度の第26回国民文化祭京都開催を契機に、中丹地域を含めた府北部における更なる住民の機運醸成や活動の充実発展を図っていく必要がある。</p>		
事業概要	<p>中丹地域における唯一の広域文化芸術事業として、各種の文化芸術フェスティバルを開催することにより、平成23年度の国民文化祭京都開催を契機に機運醸成を図るとともに、地域における文化活動の活性化と豊かな地域社会の発展を目指す。</p> <p>また、地域住民における参加型事業として、各団体・個人の活動が広域かつ多岐にわたり様々な交流を重ねる中で、その創造的な文化芸術活動の進歩・向上に資する。</p>		
期待される事業効果等	<p>地域住民の活動が広域かつ多岐にわたり、様々な交流を重ねることで、その文化芸術的な進歩や参加住民のモチベーション向上などを図ることができるとともに、経費の面においても、中丹3市が連携し役割分担することで、より少ない経費負担で大きな事業展開ができることから、中丹地域における唯一の広域文化芸術事業として複合的な相乗効果や成果を生み出すことが期待できる。</p>		
事業実績			
取組状況	<p>①踊りとダンスの祭典(7/15)、②ジュニア文化祭(7/22)、③軽音楽フェスティバル(7/29)、④中丹総合華道展(9/1. 2)、⑤合同お茶会(9/1. 2)、⑥コーラスフェア2012(9/9)、⑦中丹写真展(10/27. 28)、⑧扇の彩り(11/24)、⑨短歌・俳句・川柳公募(11/24)、⑩楽器による音楽フェスタ(12/16)、⑪中丹和太鼓フェスティバル(1/20) [関連事業] 中丹アマチュア演劇祭「演劇講習会」(8/19)</p>		
主な実績数値 (出来高数値等)	<p>出演、出品者数: 2, 011人 入場者数: 8, 259人</p>		
期待される事業効果等 に対する達成状況	達成	(左の理由)	<p>直近5年間(第22回～第26回)で最も多くの入場者があり、文化・芸術活動を推進</p>

行革効果									
行革効果の考え方	本市単独で同規模の芸術祭を開催するよりも、広域連携により負担を抑制								
年度	H22	H23	H24						
本事業を行わなかった場合に係る経費等(a)	5,887	6,283	6,038						
本事業の実績額(b)	1,960	2,480	2,110						
行革効果(a)-(b)	3,927	3,803	3,928						

(記載要領)

- 1 事業毎に調書を作成すること
- 2 「期待される事業効果等に対する達成状況」については、「達成」、「未達成」を記入し、その理由を右欄に記載すること。